



Pure 純 No.197 Pacific パ May.2018

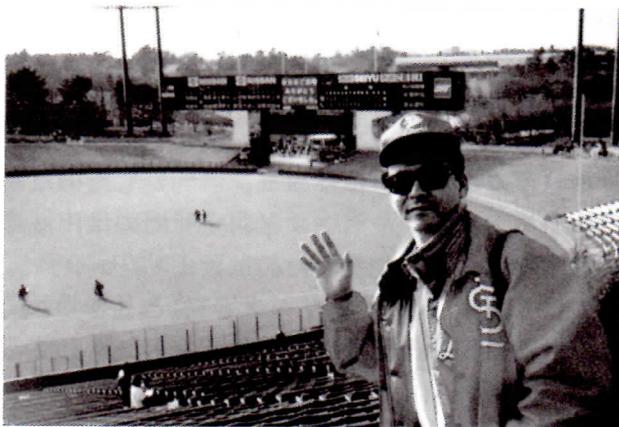
純パの会会報『純パ』第197号

2018年5月26日発行／発行：純パの会

ミラクル元年の頃 ～西武ライオンズ誕生から40年～ 塚原 隆(埼玉県和光市)

1978年秋、プロ野球界に衝撃の出来事が起きた。日本シリーズの直前、10月12日に西武鉄道が福岡のクラウンライター・ライオンズを買収し、西武ライオンズを誕生させた。所沢に新しい球場が出来るという話は野球好きな人たちの話題にはなっていたが、まさか球団まで買収するとは思っていなかった。

スポーツ新聞は一年前に指名した江川卓の入団も確実であると報じた。なにしろクラウンライター・ライオンズ



●西武ライオンズ球場と私

を拒否した理由の一つに「九州は遠いから」と主張していたからだ。私もそう思った。これならいくらなんでも「所沢は遠いから」とは言えないはずだ。しかも経営がしっかりしている西武グループである。江川卓の西武ライオンズ入団は確実だ。また日米大学野球で対戦したハワイ大のデレク・タツノ^(*)の入団も濃厚と言われた。

これは東京や埼玉、そして西武鉄道沿線に住んでいる人たちにとっては新鮮で面白い話題ではあったが、博多のファンにとっては衝撃的な出来事だった。23年間福岡をフランチャイズとしたライオンズが移転するのである。この時点で西武ライオンズの堤義明オーナーは「移転後も九州ではライオンズ絡みの試合は最低でも20試合は行いたい」と発言している。そんな状況下で2日後に日本シリーズが開幕するのである。

●日本シリーズ第7戦は1時間19分の中断

日本シリーズは阪急ブレーブスとヤクルトスワローズの初対決。東京ではスワローズの初優勝で盛り上がっていたが、前年まで日本シリーズ三連覇をしているブレーブスが底力を発揮し日本一になるだろうと言われていた。私ももちろんブレーブスが勝つことを信じて疑わなかった。

シリーズは第7戦までの展開となった。10月22日、第7戦の6回裏、大杉勝男のホームランをめぐり1時間19分の中断。ファールかフェアか、レフトポール際で上田利治監